

【都城市立高崎麓小学校】

1 活動の概要

生活科で、自然と関わる体験活動を行ったり、社会科や総合的な学習の時間の学習と関連して、クリーンセンターや大淀川学習館の見学、水辺環境調査を行ったりした。また、地域との連携で、一連の米作り体験を実施したり、地域に伝わる「俵踊り」や「めのもち作り」などを伝承したりしている。また講師招聘により、体験活動を取り入れた学びの場をいろいろ工夫するなど、環境についての学習を全校で一緒に取り組んできた。

2 SDGs の視点

「2 飢餓をゼロに」「6 安全な水とトイレを世界中に」「11 住み続けられるまちづくりを」「12 つくる責任 つかう責任」「15 陸の豊かさも守ろう」

事業の実施時期： 補助を受けた日から令和7年3月3日

1 学校の概要

本校は児童数17名の小規模校で、歴史も古く自然豊かな環境にある。小規模校の特色を生かし、学校・家庭・地域が一体となり、地域の力を生かした教育活動を行っている。毎年、地域の方々の協力を得ながら田植え・稲刈り・脱穀・餅つき・めのもち作りという一連の稲作体験活動を行っている。また、地域の伝統芸能である「俵踊り」を保存会の方々から学んで地域の祭りや運動会で披露したり、地域にある日向前田駅の清掃活動を行ったり、地域と協働して、ふるさとを生かした環境学習を行っている。

昨年度、児童は、社会科の学習でリサイクルプラザの見学を行ってごみ処理やリサイクルについて学んだ。また総合的な学習の時間で、SDGsについて調べたり、プラスチックごみを減らすための方法について調べ、まとめて発表したりしてきている。

2 活動のねらい

学校の教育活動の中で行われている環境教育に目を向け、様々な体験活動を通して、自ら主体的に学び行動できる児童の育成を図った。身近な環境の中で体験的に学ぶことを通して、身

の回りにある環境の良さに改めて気付いたり、その環境のためにできることを考えたりして、自分たちが循環型社会を実現する地域の担い手であるという意識を高める必要がある。さらには、将来の夢の実現に向け、SDGsの視点で物事を捉え、考え、実践できる子どもを育てることをねらいとしている。

3 活動内容

(1) クリーンプラザ見学

全校児童で、都城市のクリーンプラザを見学した。児童は、次々に運ばれてくるたくさんのごみがどのようにして処分されていくのかを、説明を聞いたり実際に目にしたりして、体験的に学ぶことができた。



(2) 水辺環境調査

5・6年児童は、都城市環境政策課に依頼し、自分たちの身近な環境を知り、実際に河川での生物調査や水質調査を通して環境について考えることをねらいとした水辺環境調査を行った。研究授業では、ふるさとの環境を守る活動について考えをまとめ、発表した。



(3) ネイチャーゲーム

1・2・4年生は、都城市の神柱公園に行き、環境学習「夏の自然と命のつながり発見」の活動を行った。ネイチャーゲーム指導員の方2名に指導してもらった。公園内にある木々や魚、鳥、虫などの自然を五感を使って体験するネイチャーゲームを通して、自然の中で命はみんなつながっていることに気付かせるようにした。



(4) SDGsに関する講演会

学校職員及び地域の学校ボランティアの方々を対象に、環境保全アドバイザーの(株)シンク・オブ・アザーズの代表取締役難波裕扶子氏に本校に来てもらった。

SDGsの基本について講話をしてもら



い、「誰一人取り残さない社会」を作るために考えていかなければならないことを学ぶ機会となった。

(5) 食品ロスをなくそう

4年生の総合的な学習の時間では、「みんなの未来に生かす食プロジェクト」という単元名で身近な問題である食品ロスについて学び、その課題解決に向けて自分たちにできることを考えた。ポスターを作成し全校児童に呼びかけた。



(6) 大淀川学習館見学

全校児童で、宮崎市の大淀川学習館に行き、自然観察や環境学習など大淀川の恵まれた自然を広く学び、環境保全について考える体験的な活動ができた。



(7) リサイクル工作

1・2年生は、生活科「リサイクル工作をしよう」で、プラスチック容器や牛乳パックなどがおもちゃの材料になることを知り、動くおもちゃを作って遊びを工夫したり、おもちゃまつりを開いたりした。分別しなければ、そのまま身の回りでゴミになってしまうことやプラスチックゴミが問題になっていることを絵本で知り、環境について考える糸口となった。

また4年生は、SDGsの学習を通して捨てられるものが価値あるものに生まれ変

わることを知り、牛乳パックからランタンや小物入れを作り、全校児童に紹介した。



(8) こども5R学習事業

みやざきエコの会の方々の協力ももらい、全校児童で5R学習授業「お買い物ゲーム」を行った。これは、身近なゴミ問題をテーマにゲーム形式での買い物を疑似体験させることにより、ゴミの発生に気付かせてゴミの減量化に向けて考えさせていくものであった。授業後の児童の感想からはゴミが出ない商品を考えて買うようにしたいというものや水筒・エコバックを持ち歩くなど、ゴミを減らすいろいろなアイデアがたくさん出された。



(9) 米作り体験

地域の方々や保護者の協力ももらいながら、田植え・稲刈り・脱穀・もちつきの体験を全校児童で行った。1月には、地域の伝統行事である「めのもち」作りを行い、五穀豊穡や家内安全などの祈りを込めながら各家庭に持ち帰ったり、郵便局や田の神様にも届けたりした。



4 成果と課題

(1) 成果

- 5月と12月に児童の意識調査を行ったところ、「SDGs」や「4R」と言う言葉を知らないと答えた児童はいなくなり、さらにはゴミの分別についての意識も高まっていることが分かった。
- 自分たちの学校や地区が好きだと答える児童が94.1%に及び、自然や環境について考えている児童が以前より増えた。
- 本年度、環境についての様々な体験活動を行い学習していくことで、自ずと問題意識をもって環境を大切にしたいという思いをもつようになった。

(2) 課題

- 環境のために行動する実践力を育てる取組をさらに工夫していかなければならない。
- 環境保全のために、自分たちにできることは何かを具体的に考え、アイデアを出し合って地域に呼びかけるなど、児童自らが環境をより良くしていこうと行動に移していくような場の設定が必要となる。
- 環境教育を全校で取り組んだり、各学年の教科等と関連させて取り組んだりするために、ESDカレンダーの作成を行ったりしていくとよい。



学校名： 都城市立高崎麓小学校
住 所： 都城市高崎町前田 758 番地
電話番号： 0986-62-2124
E-mail： 1371ec@miyazaki-c.ed.jp